

# 「ILLUSION LIVE 2010」

2010年オープンキャンパス（7/18、8/1・21・22）、神大フェスタ（10/30）において、心理学の知覚・感覚の分野を使った実験を通じて、人間の心と体の不思議を体験してもらうため「ILLUSION LIVE in JINDAI」というイベントが行われました。このイベントは2006年度に人間科学部が設立された年から歩み続け、毎年オープンキャンパスと神大フェスタにおいて活動しています。当初は新設学部のアピールという目的でしたが、今年で5年目を迎えたイリユージョンライブは一味違い、オープンキャンパスに来た高校生だけではなく地域の方、幅広い年齢層の方など、たくさんの人に人間科学部を知っていただけるように取り組んできました。そうすることで、今では学校行事に欠かせない看板イベントとなり、リピーター

の数も増え「去年も見に来ましたよ!!」などと言をかけてくださる方もいます。

当初の来場者は、高校3年生が主でしたが、ここ最近では高校2年・1年・中学生というように少しずつ年齢層が広がり、来場者数も増えています。そして、その中には「人間科学部を志望している」という生徒の声も年々増え、学部の知名度は高くなっていると感じています。そこで、私たちは人間科学部を代表するイベントとして、いかに来場者の方に心理学を楽しんでもらうか、ということに常に課題としています。

では実際に私たちがどのような活動をしているのか一部のブースを紹介したいと思います。大きいクマの人形と小さいクマの人形を持ち、重さを比べたところ実は同じ重さなのになぜか



人間科学部人間科学科3年 鈴木雄貴

小さいクマのほうが重く感じてしまうという、見た目の大きさによって重さの知覚判断が歪む。『シャルパンティエの錯覚』や、『プリズムを使ったためねで逆さの世界を体験する』逆さめがね、『スクリーンに映し出される色や運動残像を観察する』明るさと色の対比』や、『変化盲』などたくさんのブースが設けられています。次に、その中でも毎年人気のある『エイムズの部屋』と『座標の部屋』について詳しく説明したいと思います。

まずは『エイムズの部屋』についてです。大きな木製の部屋があり、その部屋の中を覗き窓から片眼で見ると、部屋の中にある左右の物体の大きさが明らかに違います。左側の物が小さく、右側の物が大きく見えてしまいます。しかし、実際はどちらも同じ大きさなのです。なぜこのような現象が起きるのでしょうか。実はこの部屋は「歪んでいる」のです。部屋の窓枠も壁も床も台形をしており、左側の壁は右側の壁よりずっと奥にあります。普段、私たちは両目で物を見ることで、どちらが遠くにあつて、どちらが近くにあるのかという奥行を知覚することができます（正確に言えば、両目で見る以外にも奥行を判断する手がかりはあるのですが、ここでは省略します）。しかし、小さい

穴から片眼で部屋を覗くことで、この奥行の判断が難しくなり、奥にある物と手前にある物が同じ位置にあると思ってしまうのです。そう見えるように内装も工夫してあります。さらに、私たちは日常の記憶より、部屋とは教室や家の部屋のように四角いものだと思認しており、決して歪んでいるとは考えないのです。

次に『座標の部屋』です。ある部屋の中に仰向けになって寝て、天井に向けてボールを真つ



すぐ投げてみます。そうすると、ボールは真下に落ちてくるのではなく、かなり上の位置に落ちてきます。なぜこのような現象が起きるのでしょうか。普段、私たちが真つすぐ立つことができるのは、耳の奥にある前庭器官が働くからです。しかし、横になるとこの器官が役に立たなくなり、代わりに眼に見えている壁や天井が垂直や水平の基準になります。そのため、水平な床に寝ているにもかかわらず傾いているように感じ、奇妙な感覚にとらわれるのです。つまり、私たちの平衡感覚は重力よりも視覚によるものだということが分かります。また、今回のイリュージョンライブでは座標の部屋の内部を改装して、より現象が起きやすくなりました。こういった視覚を使った体験してもらう他にも、心の働きよるさまざまな不思議について、来場者のみなさんに体験してもらえたいと思います。

人間科学部の学生が中心となり行っているイリュージョンライブは心理学の分野ですが、「心理発達コース」だけではなく「スポーツ健康コース」「人間社会コース」の他の分野の人が集まりスタッフとして活動することができます。そのため、2年次に決めるコース選択の時に、まだよく人間科学部のことを知らない1年生は

各コースの詳しい情報を先輩から教わることもでき、さらには授業の内容なども聞いたりすることができ、そういった1〜4年生までの全学年と関わることができ、みんなで1つのイベントを成功させるために協力し合うので、非常に深い人間関係を築くことができます。これはイリユージョンライブの特色とも言えます。また、各ブースの担当を決め、先輩から後輩へブースの説明の仕方を教えたり、次のイリユージョンライブがより良くなるためにどうしたらよいか改善点を出し合って話し合いもしています。

また、オープンキャンパスが始まる前に、イリユージョンライブを統括している和氣洋美先生による勉強会も行われました。これは、今まで学んだブースの知識を確認し、さらに理解を深めていこうとするものです。今年で5年目に突入し、このような事前準備をしつかりと行い、ブースの配置やスタッフの動きも年を重ねるごとにスムーズになってきました。そこで、今回は「来場者の人たちにより楽しんでもらうこと」を目標とし取り組みました。このようにスタッフ同士が切磋琢磨し、お互いに支え合うことを大事にしていくことで、スタッフや来場者の方とのコミュニケーションを取ることがで

きるのもイリユージョンライブの魅力のひとつです。

人間科学部設立当時、先生と教務補助の方と学生がゼロから作り上げてきたイリユージョンライブは今では、50人を超える非常に大きな組織になりました。その中でも、当初の先輩方が築き上げていく中で、大切にしてきた誇りや篤い思いを、人間科学部の後輩たちに受け継いでいってもらいたいです。これからもスタッフ一同、イリユージョンライブに来て下さった皆様に「人間を科学するって面白い！」と興味を持ってもらえるように、工夫を凝らし、更なる成長をしていきたいと思えます。心と体の不思議について少しでも興味を持っていただけたでしょうか。そんな方は是非一度イリユージョンライブへ足をお運びください。そして、人間の不思議を体験していただく下さい。最後になりましたが、後援いただいた人文学会に心より厚く御礼申し上げます。

